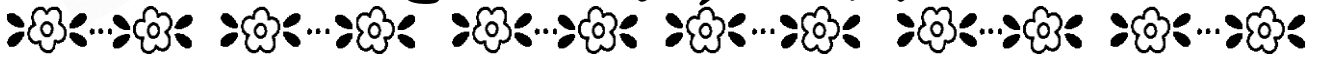


学校教育目標『つなげる 続ける 創り出す』

三ツ境小だより 6月号



「学力が高いこと」と「頭がよいこと」

校長 山本 美和

5月半ばを過ぎ、30日（土）に行う「三ツ境スポーツフェスティバル2026」に向けての準備や練習が、いよいよラストスパートとなってきました。学校全体が、活気に満ちています。当日は、お子さんが頑張って練習に取り組んできた成果をご覧いただき、成長を実感していただけたら幸いです。

今年は、PTAが外注の警備員をお願いして下さいました。当日は、子どもたちと保護者の皆様、ご来賓の皆様が安心・安全に配慮して行いたいと思います。保護者用の名札、学校から配付したシール、来賓の方は招待状をお忘れにならないようお願いいたします。

さて年度初めですが、自己紹介カードやキャリアパスポート、あるいはタブレットの中に、今年度のめあてを書き、目標をもって努力を重ね、成長へとつなげるようにしています。その中には、「テストで100点を多くとる」「あゆみでAを増やす」などと書いている児童を見かけます。

「頭のよさ」＝「学力の高さ」のことで、数値化するものと捉える子が多いですが、私はそれぞれ別であると捉えています。

小児科医の成田奈緒子さんは「親はつい学校の成績だけで頭の良し悪しを判断しがちですが、本当の頭の良さはもっている知識を統合したり、何通りもの場合を考えたりして、漏れのない推論を創り上げる論理的思考力こそが、真の頭の良さにつながっている」と述べています。

また脳科学者の茂木健一郎さんによれば、学力よりも大切なのは「地頭力」だそうです。地頭力とは、「何かに挑戦したり、問題を解決したり、変化に対応したりという生きるために必要な力」で、「地頭力を育てずして、学力だけを育てようとするのは、かなりリスクが高い戦略」と述べています。

メディアでご活躍の齋藤孝先生（本当の「頭のよさ」ってなんだろう 誠文堂新光社）は、「どんなに勉強ができて、人としてやってはいけないことの判断がつかないのは、本質的に頭がよくない」、さらに「子どもたちが学校を出てからの人生で求められる“頭のよさ”とは、社会的適応性である」と述べています。

「マニュアル重視の時代」から、急速に「創造の時代」へと変貌を遂げている現代社会においては、自分で課題を見つけて独自の解決策を編み出す力が求められています。

学校では、授業やその他の活動を通じて、自分で考えて表現できる力や自分の現状を把握して先を読む力、断片的な知識をつなげて推測して考える力など「生きるために必要な力」を育てていきます。また、第5期横浜市教育振興基本計画（2026～2029）にもある通り、一人ひとりの状況や細やかな把握を踏まえ、「こども主体の学び」を実現し、資質・能力を着実に育成します。全ての学校教育活動において、「頭のよさ」と「学力」の両方の資質・能力をバランスよく育むことを、教職員一同で取り組んでまいります。ご家庭でも、テストの点数のみに注目せず、できたところを褒めたり、その他の活動に挑戦したりする姿をあたたく見守っていただけたら幸いです。

引き続き、本校教育活動にご理解ご支援ほど、よろしく願いいたします。